

# みやぎ・復興の歩み

NOW IS.～「いま」を見つめて～

2011.3.11～2019.3.11

# 8

この冊子は、東日本大震災からこれまでの宮城の復興の様子と震災復興情報発信プロジェクトNOW IS.で展開した記事をまとめたものです。

## 知事あいさつ

### Contents

知事あいさつ	02	みやぎの復興の歩み 2011.3～2019.3	19
東日本大震災の概況	03	宮城県への支援状況／被災者支援情報	22
宮城県震災復興計画	05	NOW IS.復興レポート	23
復興の進捗状況	06	KEY PERSON	25
地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)	13	震災の記憶の風化防止・伝承施設	29
地域の復興状況(石巻エリア)	15		
地域の復興状況(仙台沿岸エリア)	17		

東日本大震災から8年が経過しました。この間、国内外の多くの皆さまから賜りました多大なるご支援、ご協力で改めて感謝申し上げます。

県内に目を向けますと、災害公営住宅の整備は全て完了し、防災集団移転促進事業も全ての地区で住宅が建築できる状況になりました。また、気仙沼市の観光集客施設「迎(ムカエル)」や、山元町の農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」などの新たな施設が各地で完成し、復興に向けたまちづくりは着実に進んでいます。

産業面においては、米どころ宮城の新たなブランド米「だて正夢」が本格デビューし、イチゴの新品種「にこにこベリー」がプレデビューするなど、「食材王国みやぎ」に新たな仲間が加わりました。また、志津川湾がラムサール条約湿地に、「米川の水かぶり」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、新たな観光資源として期待しているところです。

一方で、平成30年度は、大阪北部地震や西日本豪雨、北海道胆振東部地震など、日本各地で大規模な災害が相次いで発生しました。そのような中、宮城県は被災自治体としての経験を活かした支援を行ってまいりましたが、「災害はいつ・どこで発生するか分からない」ということを再認識するとともに、「東日本大震災の記憶と教訓を風化させてはならない」という決意を更に強める年となりました。

平成31年度は、宮城県震災復興計画における「発展期」の2年目を迎えることから、復興の総仕上げを更に進めるとともに、被災者の心のケアや地域コミュニティの再生支援など、復興計画期間終了後も継続すべき中長期的な課題や、震災の記憶の風化防止・教訓の伝承などについても、積極的に取り組んでまいります。

「みやぎ・復興の歩み8」は、東日本大震災の発災からこれまでの県内各地における復興や発展の様子を取りまとめたものです。

皆さまには、復興・発展に取り組む宮城の「いま」の姿をご覧いただき、引き続きご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



宮城県知事  
村井嘉浩



女川町中心市街